

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2016年09月21日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.55

< 学習塾の仕事は人を動かす仕事だ! >

読者の皆さん、夏期講習、お疲れ様でした。素晴らしい夏期講習になったでしょうか。私どもの顧問先で今年の夏期講習で劇的に学習量を増やした塾があります。その塾は、2014年3月開校の塾で、1年目の年間売上は約380万円。2015年6月から私どものクライアントになって、年間売上1,080万円。今年の着地予想は、2,200万円になる塾ですが、今年も夏期講習の設計を変えて、大幅に夏期講習の学習量を増やしました。そして、当然、売上も175万円から330万円になったのです。

物凄いスピードで変化している塾ですが、しかし、それに伴って、塾長自身の成長の速度も上げなければなりません。そして、生徒数も多くなり、保護者対応の数も当然増え、講師の人数も増えたので、人を動かすことを今まで以上に意識し、そのスキルを上げなければならなくなりました。

9月の初めのコンサルではそのことを意識してアドバイスをしましたが、この人を動かすということが、実は非常に難しいことなのです。ということで、今回は、この人を動かすということの前提を書きたいと思います。

人を動かすというと、皆さんは、どんなことを思い浮かべますか。部下を動かすとか、関係する人を動かすとか、そんなイメージを持つかもしれません。簡単に言えば、他人に影響力を及ぼして、何かをさせるということだろうと思いますが、実は、学習塾は、まさに生徒を動かして、生徒の夢を実現させる仕事です。ですから、人を動かすということが、学習塾の本当の仕事なのです。ぜひ、このことを理解してください。

そして、その「人を動かす」という前提は、自身を動かすことにあります。自分自身が上手く動けば、生徒を数多く獲得できるということになるのです。ということで、自分自身を動かすための心理的な側面について考えてみたいと思います。

対人関係における考え方の一つに、「視点取得」という考え方があります。有名な実験がありますので、これを読んでいる皆さん、以下のことをやってみてください。

自分のおでこに「E」の字を書いてみてください。

これは、「Eテスト」と呼ばれる実験で、自分のおでこに相手が「E」とわかるように書くか、自分が「E」と読めるように書くか、という実験です。他者の視点から書いたら前者しかありません。そうなのです、どのくらい他者視点で行動できるようになるか、そこが重要な点だということです。「視点取得」とは、他者の視点をどのくらい自分自身の中に取り入れられているかということです。「他者視点」で自然と行動できるようになれば、他人を動かしやすいくなるわけです。

他者を動かすためには、自分自身がどんな人間であれば良いと思いますか。

簡単に言えば、元気で明るい人と元気がなくて暗い人では、どちらが人を動かしやすいですかということです。もちろん、前者ですよね。このような人になるためにはどうしたらよいか。充実した人生を送っているという実感がある人になれば、元気で明るい人になれるはずですよね。では皆さんなら、人生を充実したものにするために、どちらの感情を重視しますか。ポジティブな感情とネガティブな感情と――。

大体の人は、ポジティブな感情を重視すると考えたのではないのでしょうか。それでは、もう一つ質問です。ネガティブな感情は、人生を充実させるためには必要ありませんか。

実は、ポジティブな感情だけでは、充実した人生にはなりません。ポジティブな感情とは、「喜び」「感謝」「安らぎ」「好奇心」「希望」「誇り」「愉快」「鼓舞」「畏敬」「愛」のような感情のことです。ネガティブな感情とは、「怒り」「罪悪感」「困惑」「軽蔑」「恐れ」「羞恥心」のような感情です。

実は、この二つの感情のバランスが、人生を充実したものにするのです。ですから、全面的にポジティブな感情だけを持つ必要はありません。ポジティブな感情とネガティブな感情がどういう割合で感じられるかで幸福度が変わるので。それを比率で表すと(ポジティブな感情:ネガティブな感情) = 1:1や2:1では幸福度は高くなく、3:1の割合で人生を生活している時、最も幸福度が高い人生になるそうです。ポジティブな感情がネガティブな感情を上回る方が良いのですが、だからと言って1:1の割合になってしまうと、底抜けの楽道家になってしまう、ポジティブな感情が人生にとって有害になってしまうのです。能天気な人が良いわけではありません。元気で明るい人=能天気な人ではないのです。ネガティブな感情をある程度持っている人こそ、他人の役に立つ元気で明るい人なのです。

次に他人を動かす人は、やる気のある人ややる気のない人か、どちらだと思いますか。

それは、当然、前者だろうと皆さん思いますよね。その通りなんです、いつでもやる気であるためには、努力が必要です。しかし、実際の生活では失敗をすることもあり、やる気がなくなってしまうこともあるものです。そんな時、どうしたらよいか。ここで登場するのが、「学習性無力感」という考え方です。

皆さんは、「学習性無力感」という言葉をご存じですか。
やる気の説明で、この「学習性無力感」を持ち出すことに違和感を持たれた方もいるでしょうが、ちょっと我慢して読んでください。

「学習性無力感」とは、自分に起こった不幸な事態に対する説明を自分自身にした結果、やる気をなくし、無力感で満たされるという理論です。動物実験等で、何をやってもマイナスの結果を与えられた動物は、もう行動を起こさないといいるところから、「学習性無力感」と名付けられた理論ですが、実は、その先には続きがあって、どう自分自身に説明するかによって、「学習性無力感」にならずにすむという理論なのです。

アメリカに住むセールスマンを対象にした実験で、セールスを断られたセールスマンが、その営業に失敗したことをどういうスタイルで自分自身に説明したのか(言い聞かせたのか)で、どのくらい離職率に差があったかを調べたのです。その結果、楽観的な説明のスタイルと悲観的な説明のスタイルでは、2倍以上の差が出たのです。そして、業績的にも2倍以上の差があったのです。当然ですが、楽観的な説明のスタイルの方が良かったのです。

楽観的なスタイルの人は、悪い出来事があった時は、「一時的なもの」「その対象者に固有のもの」「外部の事情によるもの」だと解釈したのです。失敗してもめげないように自分自身に説明することが、やる気を起こさせる元なのです。

以上の話をまとめましょう。自分自身を動かすためには、他者の視点を取得し、自分の中にある感情をしっかり受け止め、悪い事態でも楽観的な説明のスタイルを自分自身に取ることです。感謝ばかりしてなくても良いですし、たまには、ネガティブな感情を持つことも人間です。失敗をしてしまうこともあるでしょうから、失敗をした後は、楽観的な説明のスタイルで自分自身を勇気づけてください。まず、この心の構えこそ、人を動かす大前提なのです。

そうすれば、心に余裕が生まれ、人を動かしやすくなります。まず、自分自身の存在が、他人を動かしやすくなるあり方になるかどうか、ここを意識してみてください。

2016年の後半戦、ぜひ、素晴らしい活動をするためにも、今一度、自分自身を振り返ってみてください。

【編集後記】

弊社MBAでは『塾にしかできないアクティブラーニング』をテーマに全国3ヶ所でセミナーを開催します！10月16日：東京、10月23日：福岡、10月30日：大阪。中土井鉄信がアクティブラーニングの本質に迫ります！詳細はホームページでご確認ください。<http://www.management-brain.com/2016/ac>
また、今秋11月27日(日)に東京・渋谷サンスカイルームにおいてスペシャルなセミナー『MBA15周年記念セミナー』を開催します。15年の感謝を込め、5人の塾の達人が登場！学習塾経営の現状分析から、WEB集客、スクール経営、そして学習塾の未来へとテーマが進む、充実の内容となっています。受講料も感謝価格！詳しくはホームページでご確認ください。

<http://www.management-brain.com/2016/15aniver>

お問い合わせ、お申込、お待ちしております。

お問い合わせ先→TEL045-651-6922

Mail: mailadm@management-brain.co.jp

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.19-1

ご記憶の方も多かろうと思いますが6月下旬、アジアの大学ランキングで東大が首位を陥落という報道が流れたことがありました。

衝撃は小さくなく、ネットへの書き込みなどには、「このままでいくと日本の産業競争力はもたない」「どんどんカネをつぎ込んでなんとかしろ」というような危機感を煽る意見が数多く見られたようです。

世界が幾何級数的に狭くなっていく時代です。

このニュースをどう受け止めたらよいのか、われわれも考えておく必要があるようですので、今回は世界の大学ランキングについて――。

まずは6月20日に発表された、当該ランキングを確認しておきましょう。

【順位】	【アジア大学ランキングトップ20】
1位	シンガポール国立大学(シンガポール)
2位	南洋理工大學(シンガポール)
3位	北京大学(中国)
4位	香港大学(香港)
5位	清華大学(中国)
6位	香港科技大学(香港)
7位	東京大学(日本)
8位	ポハン(浦項)工科大学(韓国)
9位	ソウル大学(韓国)
10位	韓国科学技術院(韓国)
11位	京都大学(日本)
12位	成均館大学校(SKU) (韓国)
13位	香港中文大学(香港)
14位	中国科学技術大学(中国)
15位	国立台湾大学(台湾)
16位	香港城市大学(香港)
17位	ヘブライ大学(イスラエル)
18位	高麗大学校(韓国)
19位	復旦大学(中国)
20位	テルアビブ大学(イスラエル)
……… 以下、トップ100入りした日本の大学 ………	
23位	東北大学
24位	東京工業大学
30位	大阪大学
34位	名古屋大学
46位	筑波大学
48位	九州大学
49位	北海道大学
52位	首都大学東京
59位	東京医科歯科大学
73位	広島大学
97位	東京農工大学
99位	大阪市立大学

トップ20に日本は東大、京大の2校だけ。

対して韓国は5校、中国は4校、ただし香港を含めると8校……。

確かに見劣りは免れません。

ところで、このランキングは英国のタイムズ・ハイアー・エデュケーション誌が発表した「THEアジア大学ランキング」と呼ばれるものですが、こうした世界の大学のランキングはいくつかあり、以下の4つの機関のものがとくに有名なようです。

QS世界大学ランキング(QS World University Rankings)

【略称QS】…英国・クアクアレリ・シモンズ

THE世界大学ランキング(The Times Higher Education - Thomson Reuters)【略称THE-TR】…英国・タイムズ・ハイアー・エデュケーション

世界大学学術ランキング(Academic Ranking of World Universities)【略称ARWU】…中国・上海交通大学高等教育研究所世界一流大学研究センター

CWUR世界大学ランキング(The Center for World University Rankings)【略称CWUR】…サウジアラビア・世界大学ランキングセンター

上記の4機関発表の、アジアではなく世界ランキングの最新版トップ10を見てみましょう。

QS世界大学ランキング(16年9月発表)	
1位	マサチューセッツ工科大学(米国)
2位	スタンフォード大学(米国)
3位	ハーバード大学(米国)
4位	ケンブリッジ大学(英国)
5位	カリフォルニア工科大学(米国)
6位	オックスフォード大学(英国)
7位	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(英国)
8位	スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)
9位	インペリアル・カレッジ・ロンドン(英国)
10位	シカゴ大学(米国)
(日本の最上位は東大の34位、次位は京大の37位)	

THE世界大学ランキング(15年9月発表)	
1位	カリフォルニア大学(米国)
2位	オックスフォード大学(英国)
3位	スタンフォード大学(米国)
4位	ケンブリッジ大学(英国)
5位	マサチューセッツ工科大学(米国)
6位	ハーバード大学(米国)
7位	プリンストン大学(米国)
8位	インペリアル・カレッジ・ロンドン(英国)
9位	スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)
10位	シカゴ大学(米国)
(日本の最上位は東大の43位、次位は京大の88位)	

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド Vol.19-2

世界大学学術ランキング(16年8月発表)	
1位	ハーバード大学(米国)
2位	スタンフォード大学(米国)
3位	カリフォルニア大学バークレー校(米国)
4位	ケンブリッジ大学(英国)
5位	マサチューセッツ工科大学(米国)
6位	プリンストン大学(米国)
7位	オックスフォード大学(英国)
8位	カリフォルニア工科大学(米国)
9位	コロンビア大学(米国)
10位	シカゴ大学(米国)
(日本の最上位は東大の20位、次位は京大の32位)	

CWUR世界大学ランキング(16年7月発表)	
1位	ハーバード大学(米国)
2位	スタンフォード大学(米国)
3位	マサチューセッツ工科大学(米国)
4位	ケンブリッジ大学(英国)
5位	オックスフォード大学(英国)
6位	コロンビア大学(米国)
7位	カリフォルニア大学バークレー校(米国)
8位	シカゴ大学(米国)
9位	プリンストン大学(米国)
10位	エール大学(米国)
(日本の最上位は東大の13位、次位は京大の20位)	

米国、英国のオンパレードですね。
 どうしてこうなるかという、理由は単純です。
 もともとこうしたランキングは、評価のしやすい科学技術系の業績が主体になっているうえに、業績の大きい小さいは、英語で書かれた論文の多い少ないで決まることになっています。つまりは、科学技術系の英語論文が多ければポイントが高くなり、少なければ低くなるというわけです。
 そう考えれば、立派な業績を上げているドイツやフランスの大学が、全く顔を見せていないのもうなずけるのではないのでしょうか。

では、これをどう捉えたらよいのでしょうか。
 大学の使命は科学技術を追求することだけではない、いわゆる研究成果を英語で発表することだけが目的ではない、したがって評価自体が偏っているのだから無視したらよからう、という考え方もあるでしょう。
 また、これが世界の潮流・主流なのだから、乗り遅れないよう日本も持てる資源をつぎ込んでランキングを上げていくべきだ、という考え方もあるでしょう。

簡単に結論は出ませんが、いま盛んに進められている高大接続システム改革の根底には、明らかに後者の考え方があります。われわれのような業界にとっても、難しい時代になりましたね。

PS・コンサルティング・システム 小林 弘典

日本で一番売れている英会話教材を学習塾用にカスタマイズ



- 自宅でも教室でも学習可能。
- ゲーム感覚で楽しみながら、何度でも学習できる。専用タブレットのみでご利用頂けます。

学習塾だからこそできる小学生英語指導

<p>今まであった小学生向けの英語指導とはココが違う!</p>	<p>学習塾経営のプラスになるコンテンツはココが重要!</p>	<p>生徒・保護者の英語学習に対する本当のニーズとは?</p>
<p>日本で一番売れている英会話教材を中学英語学習指導要領に対応。</p>	<p>学習塾は長期能力育成型モデルより短期集中対策型指導が得意。</p>	<p>生徒は自分のペースで楽しく学習を進めることが一番大切。</p>
<p>アプリによるデータ供給型だから小学英語必修化でも即対応可能。</p>	<p>小学英語は授業料が安いのでランニングコストは低いことが絶対条件。</p>	<p>結局、保護者の一番のニーズは「中学校で100点が取れるかどうか」</p>

小学校4年生から始めて中学校の定期テスト満点を目指す。